

平成28年度 事業計画書

平成12年度から実施されてきた『社会福祉基礎構造改革』として社会福祉法を中心とした法改正や制度改革がほぼ出そろい、地域福祉の推進という新たな視点で国の方向性も示された。今後、平成32年（2020年）の改革目標年度を見据えた平成30年の診療報酬と介護報酬の同時改定が大きな山場となる。

千寿の郷としては、『社会福祉基礎構造改革』の内容を念頭に置き、来年度の事業方針を組み立てる。

1 利用者の立場に立った社会福祉制度の構築

- (1) 特別養護老人ホームが措置方式から契約方式となったことにより、利用者の自由な選択による利用が可能となった。しかし、情報の非対称性の課題については、契約書の内容や契約締結時の説明が不十分であると認識している。契約締結と自己決定能力の確認について、早期にガイドラインを策定することとする。
なお、虐待を理由とする特例入所（措置入所）については、大津市当局や社会福祉協議会、成年後見人との連携により受入れており、利用者を含む家庭全体の支援に取り組み、措置から契約への移行（在宅生活への復帰を含む）を目標に努力する。
- (2) 苦情解決制度については、サービスの質の向上を担保するために設けられた契約制度へ移行した介護保険制度の重要な役割を果たしている。従って、利用者の処遇に関する苦情やサービスの質の中核をなす安心・安全に係る事故についても苦情解決委員への報告と再発防止に努めてきた。しかしながら、中重度の要介護者が増えるに従い、転倒・転落時や移乗時の骨折、誤嚥性肺炎など不可抗力ともいえる事案もあり、サービスの質の向上と再発防止、家族の理解など契約の当事者として対等な関係での問題解決に努めていく。

2 サービスの質の向上

- (1) 良質なサービスを支える人材の確保については、正規職員の介護福祉士の資格保持が普通となり、介護支援専門員の資格を併せて取得する職員も増えてきた。職員個人の将来の方向性も相談のうえ専門性を生かせる職位や職務を考慮する。
- (2) サービスの質の向上を図るうえで、第三者機関の評価がある。当面は、家族会等による第三者監査を検討する。

3 社会福祉事業の充実・活性化

第二種社会福祉事業への民間企業の参入は、社会福祉事業の活性化になった。しかし、過当競争となり、利用者から選ばれるサービス提供者となるための個性化が求められ、更に介護報酬が高額で推移した通所介護は、平成27年度の介護報酬改定では6%を超える減額となり、大きな打撃となった。平成28年4月から小規模通所介護が廃止されるなど小規模事業所の整理統合や県から市町村への権限移譲が行われる。今後、平成29年4月から大津市ではじまる総

合事業を念頭においた通所介護の方向を決めなければならない。

4 地域福祉の推進

- (1) 社会福祉法の中で、地域福祉が主流であり、その推進の担い手として、地域住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者が規定されたことに留意しなければならない。
- (2) 今後の地域貢献として次の事業化を検討している。
 - ア 認知症キャラバン・メイト養成講座修了者による認知症サポーターの養成活動の実施、特に、中学生を対象とした活動を進めたい。
 - イ 隣接する障がい者施設とともに南郷学区内にアウトリーチの拠点作りをし、障害者や高齢者の相談所の開設を目指し、地域資源の連携のモデルケースとしたい。

5 千寿の郷の経営

末尾の図のとおり、千寿の郷の事業は、居宅サービスと施設サービスが相互に影響しながら運営されている。従って、それぞれのサービスが独自に経営が成り立つ仕組みとはなっていない。つまり、福祉ニーズとサービスの提供体制のバランスが保たれることが経営の前提となっている施設である。バランスを崩さないためにも、毎年度の全体としての健全経営が重要である。以下に今後の経営の基本的な目標を整理した。

平成28年度から5年で福祉医療機構からの借入金残額7,000万円弱の返済が終了する。介護報酬の大幅減額改定があった平成27年度から次の平成30年度の改定（大幅減額改定と予測されている）までを乗り切り、収支差額がプラスとなるよう次の①から④を目標とする。

- ①特養の平均要介護度4以上を達成する
- ②ショートステイの稼働率は現在の好調を維持する
- ③デイサービスの中重度者ケア体制加算を安定的に取れるよう要介護度3以上の利用実績を増やす
- ④人件費抑制に努める
- ⑤施設設備改修の5か年次計画を作る
- ⑥安定した組織体制とするため、職員の健康を維持できる労働改善をする

6 その他

陀羅谷産業廃棄物処理場の建設反対運動については、地元自治会が代理人弁護士を選任するほか、政治、行政が建設阻止の方向へ進む情勢となった。

そして、地域の環境対策については、福祉3施設の利用者の生活環境保護の姿勢が基盤となり、重要視されており、今後とも地域福祉の視点で地域住民の方々と幅広く連携していく。

千寿の郷の相互作用関係

